

成事候条、不殘申あらはし候、此後ハむねにいさゝかため申間敷候、勿論速ニ可承候、此上少もとこほり候へも、只今申さす候こそうへにて候、我らハ一めんもく此儀定候

一此まへかた之こと、善こも惡こもくさんまで候、不入候、御方之儀、各ほうひ申候間、尙以御たしなと先祖の御届、又一身之名を被殘儀候、不及申候、我等なと此成下之上、たしなと所へハ不行候得共、不慮こ不様候の秀就^(毛利)に仕渡、するく隙明候へは今生之本望不過之候、今一兩年之間事候、老後專一とまへく人く申候を、よそことと存行當候、無事ニ調候へも太悦まで候、此願望候、萬喜く、重疊可申承候く、恐く謹言

十一月廿九日

宗瑞様
御判

福越る

右宗瑞様御書之譯ハ、關原一卷以後、御本領御安堵之御事ニ付、吉川藏人廣家・福原越後守廣俊別申合、越後守儀天下向に罷出、井伊・本多等之衆中別取入相交り、御舊領之内、藝州・防長御安堵之首尾段、其格仕候節、右

福越る

與こ此通いつれへも申間候へく、事繁候間書中ハ不成候、猶期吉事候

爰元去ル十六日京着候、則御年寄衆よりも御使給候

一十九日高力左近殿爲御上使被下候、氣相をおさへ罷上候段、御祝着之由御懇之御意候、相草臥可申候間ゆるりと御目見へ可申之由、大炊殿御内儀にて昨日廿五日御城罷出候、先大炊殿迄罷上、色々結構なる御振舞共候、左候御城罷上候、玄關迄乗物にて可罷上之由御意候、歴々御年寄衆玄關ニ御待候間參候、さて神尾刑部殿・柳生又右殿其外道三之事不及申、皆ミ手を御引候て、御前へ罷出候時ハ上野殿手を御引候大炊殿兩人之御取持非大形候、冥加おそろしく候との申事候

一上様御意にハ、はるく罷上候、氣分被聞召たるよりも惡候条、彌養生肝要之由、殊外被入御念御意候、まへく之儀共、ゆるくと御物語有度候得共、結句氣共つまり相草臥候する間、無御意之由色々御懇之儀候、御前にて上野殿・大炊殿、我々存所を被心得候て

之譯ニ付、越後守儀殊之外徳川御大老衆へ相交り取入候様子、其身天下向に隨身之働とも仕なとの様こ、違却之風説とも有之候、其後彌右越後守坏心遣故、御兩國御安堵之儀御誓詞等被相調候、其已後輝元様別御働之御感御太悦ニ被思召、右廉之御書ハ前廉之御尊旁ニ付、段々御書被成下將又右御兩國被爲進候節、兩御所様吉川・福原ハ被對之趣ハ吉川氏ハ相達有之通候

書中被差上せ候はかりにて可調候哉、一剋も急申度候、さてくか様之儀、少も返辨に調候事忝きとく之調と存事候、不及申く、江戸河内所へ自御方懇ニ可被申遣候

舊冬從上様銀子百貫目長門ニ被遣之由候、然も高須ニ被預置之由尤之儀候、此銀子ハ惣別不遣候、たしな候て可然千万存事候得共、江戸之借銀二百八十貫目之由候、少成共早返辨肝心之調候間、此銀子一剋も頓江戸に遣候可然と存候、長門も申て候、とかく申様ニと申儀候、是ハ取分長門爲候間、急差下可然候間、其通從御方ふしへ可被申遣候、先日御方も其御分別候つる、また御急專一候、爲此申候、爲御心得候、恐く謹言

三月八日

宗瑞様
御判

無殘所上野殿被申上候、大炊殿之儀も不及申、上野殿今度程入魂之儀有間敷と申事候、大炊殿ハ彼是物語申度との申事候、昨日も餘互ニ無隙候間不成候、何も透次第二一兩日中、又此条計ニ大炊殿へ可罷越と存候、其儀調候も定御暇可被下候間、則可罷下候一諸大名衆御暇被下候するとの儀と申候へ共、于今無御意候、長門事定可爲其分候へ共、萬長門・我々間之調、爰許にて不成候、いつれも其許ハ長門も可罷下候、可有其心得候

一來年之御普請江戸・大坂にて候、定方角にて候間、大坂之御普請仕事にて可有之哉と藤堂和泉内證候、然共于今しかとの事ハ不相聞候

一我々氣分も能候、草臥ハ不及申候、道三之藥を用申候相應之様ニ覺へ候間彌申談候

一其表皆々氣分ともよく候哉、此たん存事候

一爰許我々人に對面ことハりを申候、長門・甲州之あいしらい被申候へ共、何かと心遣候間、多分同事にて候、草臥申候

一御方氣分如何候哉、不可有油斷候、次爰許之もの候間、兩種進之候、何も罷下、萬喜重疊可申候、かし

く
(元和五)

八月廿六日

宗瑞様
御印形

福越後

22

夕部の直こ趣承、彌安堵、さてくきとくなる調、日にまし悦申候、御方大忠候く、以來不可有忘却候一夕部之下衆一人之事、何にともせうし千万候、さてくなにと後とかめ候く被仰可申事候哉、其方思案才覺頼候、廣家可被申談候、彼方尋候時之返事之御思惟候て可給候、はたと我く忘却仕候、更申わけ不出來候

一あ御事のかい分尋させ申候く、かしく

福式

23

先日於爰元可相談存候つれ共、氣分いかに淺難計候、其上上洛急候間無其儀候
一吾等事内病者付、公儀罷出候事一入不相成候故、御方存知之様こ上州なとへも折、此段をも被相心得候て給候へと申候、更以自由にて無之候、其段不及申候

就其今度も罷上こ不及之由、自上州被入念兩度被申越候、忝儀こ候

一駿府御わたましこて候へ共、終こ不罷出候事

一長門守縁邊なと如此被仰付候段、家之安堵不過之候處こ、我等もうちこも不罷下儀、背本意外實迷惑候事

一拾万石無役こ被仰付候、抽自余こ忝候事

一先度承候様こ、自然長門暫時御暇をも被下候へも、生々世々忝儀こ候、其外有間敷御懇意之段、中々申も疎之儀こ候、病者と申候ても、ふせり居候ほとこの事こても無之候こ、其後一度も不罷下候間、万忝と心中二千萬存候て淺、不罷下候得る上様之御事を御懇悲こ御分別もあるへく候、諸傍輩も汰沙之限と可被存候、左候時我等身上之事も第二候、長門爲いか迷惑候条、縦煩候、宿まて成共一度罷下候、近年忝所を後申上度と存候つる、然も當年之御役目無之候、我等氣分も如形候間、路次こて煩候共、其所まて罷越、如此之通御取次まて申、從中途罷歸候得、長門守こ御懇之忝之所も眞實と各も被存、又以來彌奉頼申所も聞へ候、さ候へい老後存殘所も無之候、相草臥候間、可相届所一圓不存候得共、存通如此候、先御方へ内

子并羽折拾遣之候也

(慶長十二)

五月七日

家康公
御黒印

福原越前守とのへ

27 就火事手燭三十到來喜悅候也

八月十日

家康公
御黒印

福原越後守とのへ

28 爲重陽之祝儀、小袖二到來悦思召候也

九月九日

家康公
御黒印

福原越後守とのへ

24 爲端午之祝儀、帷子三之内生絹二到來、悦思召候也

五月四日

家康公
御朱印

福原越前守とのへ

25 爲歳暮之祝儀、小袖一重之内綾一到來祝着候、謹言

十二月廿八日

家康公
御朱印

福原越前守殿

26 遠路普請、不嫌晝夜仍入精、早々出來之由感悦候、仍帷

30 爲端午之祝儀、帷子三到來悦思食候、猶大久保相模守可申候也

(端午)

29 爲重陽之祝儀、小袖一重到來善悦之至候、猶大久保相模守可申候也

九月九日

(徳川)
秀忠 御判

福原越前守殿